

## 教材活用シリーズ 第96回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

### 「音読」の効果で算数の力をアップ

(株)日本標準  
『算数まるごとスキル』



(株)日本標準  
企画編集部

#### 1. はじめに

平成18年から発行している『算数まるごとスキル』は「計算問題は得意でも、計算の意味理解が不十分。子どもたちが意味を理解できる教材を」という先生方の声から生まれた教材です。いわゆる計算問題がずらりと並んだ「計算ドリル」ではありません。この『算数まるごとスキル』は修得・習熟機能をあわせ持ち、「音読」を最大の特長とする教材です。

「音読」は算数では一般的にはあまり行われていないかもしれませんが、しかし、子どもたちが「理解」するためには、「音読」は大変効果のある学習方法です。

#### 2. ていねいな4つのステップ構成

『算数まるごとスキル』は、単元学習の内容毎にステップ方式で構成しています。

ステップ1 「できるかな？」準備ページ…確認

ステップ2 「声にだしてよもう」音読ページ…修得

ステップ3 「れんしゅうしよう」練習ページ…習熟  
ステップ4 「たしかめよう」確かめページ…確認  
この4つのステップを踏みながら、基礎・基本の定着を図ります。

#### 3. 各ステップと活用例

##### ① ステップ1「できるかな？」

算数は、前学年までの学習内容を基盤として、当該学年の学習が形作られる教科です。そのため、単元に入る前には、まず前学年までの学習事項がきちんと身につけているかを確認することが大切です。単元の学習前に実施して、予めつまづきを発見・治療することによって、本単元にスムーズに入ることができます。算数少人数指導のクラス分けのプレテストとしても活用されているページです。

##### ▼「できるかな？」準備ページ

16 16 16

わり算をしましょう。 ( /10)

① 8÷2	② 9÷3
③ 24÷6	④ 54÷9
⑤ 12÷4	⑥ 25÷5
⑦ 9÷9	⑧ 7÷1
⑨ 0÷1	⑩ 64÷8

わり算をして、( )に答えのたしかめを書きましょう。 ( /10)

① 16÷3	② 38÷5	( )
③ 51÷7	④ 83÷9	( )
⑤ 35÷4	⑥ 62÷8	( )

▼「声にだしてよもう」音読ページ

**17** **3年上の算数** 1. 何十、何百のわり算 **声にだしてよもう**

やり方 ① 問題文をよく読んで、□に入る数や○に入る数を考えましょう。② 求めた答えを声に出して読みましょう。

**1 何十のわり算**

60本のえん筆を、3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何本になりますか。

① 全部の本数 ÷ 分ける人数 = 1人分の本数  
だから、求める式は、□ ÷ 3 = □

② 10本のたばで考えると、6たばを3人で分ければよいから。  
たば…6 ÷ 3 = 2  
本数…60 ÷ 3 = □  
答え ( ) 本

**2 何百のわり算**

800本のひごを、4人で同じ数ずつ分けます。1人分は何本になりますか。

① 求める式は、800 ÷ □ = □ です。

② 100本のたば ( ) たばを4人で分ければよいから。  
たば…8 ÷ 4 = 2  
本数…800 ÷ 4 = □  
答え ( ) 本

② **ステップ2 「声にだしてよもう」**  
この教材の最大の特長になります。教科書で一通り学習内容をおさえた後、この音読ページに取り組みます。空欄を穴埋めしながら、授業内容を復習します。作業が終わったら、音読マークに従って、計算の意味ややり方・定義などの文章を声に出して読む「音読」の実践です。場合に依り、「一人読み」、「グループ読み」、「一斉読み」など音読の形に変化をつけ、何度も取り組むと効果的です。教科書の学習だけでは理解があやふやな子どもも、音読をしながら次第に理解が深まり、学習内容の理解が確かなものになっていきます。

また、この音読ページは、朝の学習タイムにも活用することができます。大きな声で音読をすることで脳が活性化し、1時間目の授業に集中力を高めた状態で入ることができます。

③ **ステップ3 「れんしゅうしよう」**

教科書の練習問題を終えた後、授業や家庭学習で再度復習できるページです。学習内容の意味ややり方を理解し、反復練習をすることによって、定着に結びつけます。練習問題でわからないときは、音読ページに戻り、もう一度確認すればよいので、『算数まるごとスキル』だけで自学自習ができます。

また、この練習ページの文章題にも音読マークがあります。文章題の黙読では文章を読み飛ばし、何について答えたらよいかわからないまま問題を解こうとする子どももいます。でも、音読なら読み飛ばしはできません。文章をきちんと読んで答えるという習慣をつけることができます。

④ **ステップ4 「たしかめよう」**

単元学習の最後に、全体を振り返らせることで、より確実な定着を図ります。学習した直後は問題を解けても少し時間が経つと忘れてしまうことも多々あります。間違えた場合は音読ページに戻って再挑戦です。単元テスト実施前の復習としても活用されています。

4. **おわりに**

『算数まるごとスキル』は学習内容の意味ややり方を、音読をしながらいていねいに学習

▼「れんしゅうしよう」練習ページ

**27** **3年上の算数** 4. 何の計算 **れんしゅうしよう**

① たくみさんはなわとびを54回とびました。弟は9回とびました。たくみさんがとんだ回数は、弟がとんだ回数の何倍ですか。  
式  
答え ( )

② まきさんはシールを140まい持っています。お姉さんはまきさんの3倍のシールを持っています。お姉さんはシールを何まい持っていますか。  
式  
答え ( )

③ フッキーのおだんは、あめのねだんの6倍で、120円です。あめのねだんは何円ですか。  
① あめのねだんを□円として、かけ算の式に書きましょう。 (10)  
( )  
② □にあう数を求めて、あめのねだんを求めましょう。  
式  
答え ( )

▼「たしかめよう」確かめページ

**30** **3年上の算数** 1. 何十のわり算 **たしかめよう**

① わり算をしましょう。  
① 6)84      ② 4)84      ③ 3)912  
④ 6)216      ⑤ 9)703      ⑥ 5)253

② 55この贈物を、1回に4こずつ運ぶと、何回で全部を運び終わりますか。  
式  
答え ( )

③ りえさんは本を108さつ持っています。これは、妹の持っている本の3倍です。妹は本を何さつ持っていますか。  
式  
答え ( )

習できる教材です。そのため、理解しきれなかった内容もこの教材を使うと、子どもたちにしつかり理解させることができます。特別支援クラスでも使われています。これからは一人でも多くの子どもたちが「算数」がわかる教材にしていくために、さらなる改善に努めていきます。